

# デザインによる寺院の再起

-人とのコミュニケーションに注目して-

Reviving the Temples through Design

-Focus on communication with people-

## ■ 田中 杏佳 Kyoka TANAKA

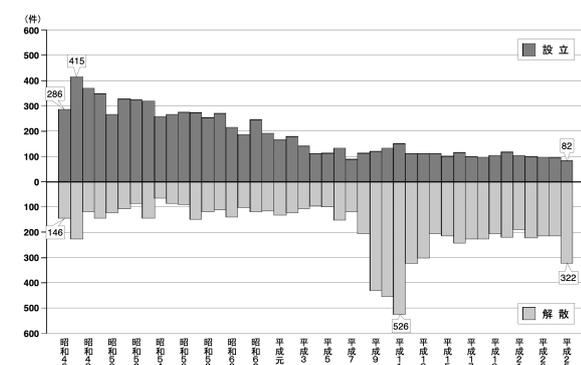
愛知県立芸術大学大学院 春田登紀雄研究室

*Aichi University of the Arts*

## ■ キーワード：寺院、法話、コミュニケーション

### はじめに

2021年の時点で、寺院は全国におよそ7万7000存在する。そのうち住職のいない空き寺は1万7000近くに及ぶという調査がある(図1)。



(注) 合併による設立・解散を含む。

図1 宗教法人の設立、件数解散件数の推移(出典:文化庁)

檀家は年々減り続け、寺院は次々と廃業へ向かっている。老朽化した本堂の建て直しや新たな事業で成功した事例はごく少数であり、多くの寺院は布施収入だけでは生計を立てられなくなっている。先祖供養や墓参り、仏教の教えに意義を感じない、などの声が多く、今の社会に必要とされていないという現状もある。

こうした背景のもと、本研究では、人が来なくなってしまった寺院の魅力や地元の人が観光客に伝えるためのデザイン的手法を提案する。既存の手段にとらわれず、どの年代にも持続して愛され続ける寺院を目指す。

具体的には、人と人との繋がりを支え、地域の交流の場としての役割を担っていた寺院が将来消失しないために、法話に焦点を置いて研究を進める。

### 1. 法話とは

法話とは、僧侶が聴衆に向けて話す仏法に関する話である。仏教の教えに基づいた話を僧侶や住職の体験談などをもとに、具体的な事柄にして読経後などにわかりやすく説き聞かせるものだ。大勢に向けて教えを説く他に、一人ひとりの悩みや相談事を聞くこともある。

自然と人が集まる、人々に必要とされる場所であり続けるために、住職や寺院の人間と参拝者の距離を縮める。教えを説くというより悩んでいる人の話を聞き、会話を通して人の心を和らげることに焦点をあてる。教育や炊き出し、人助けという寺院本来の役割を、現代の思考に合わせて展開していく(図2)。



図2 天台寺で特別法話を行う瀬戸内寂聴さん(出典:産経ニュース)

### 2. 研究

#### 2.1. 調査

法話に関するサービスや施設について調査した。

舜 法要出張サービス

30分 5,000円で僧侶に人生相談が可能。

現役の僧侶が対応している。電話またはメールで日時を設定し相談した後、布施を渡す。

<<https://shunobousan.com/kakushuhouyou/>>

慈光寺 こころの相談室

50分 2,000円で僧侶に人生相談が可能。

前住職が代表を務めており、電話またはファックスで申し込みをする。

<<https://jikouji.teraj.com/counseling/>>

崇興寺 公式 LINE

90分無料 LINE電話にて相談が可能。

住職が1対1で相談を受けている。公式LINEから予約し、電話にて相談。

<<https://soukouji.com/悩み相談>>

暮らしの保健室

無料

看護師や栄養士などの専門職スタッフやボランティアが在中。暮らしや健康に関する相談が可能。

<<https://kuraho.jp/feature.html>>

2)産経ニュース

<<https://www.sankei.com/photo/story/news/170505/sty1705050011-n1.html?view=pc>>

#### 他参考文献

- ・ 舜 法要出張サービス  
<<https://shunobousan.com/kakushuhouyou/>>
- ・ 慈光寺 こころの相談室  
<<https://jikouji.teraj.com/counseling/>>
- ・ 崇興寺 公式 LINE  
<<https://soukouji.com/悩み相談>>
- ・ 暮らしの保健室  
<<https://kuraho.jp/feature.html>>

## 2.2. 考察

このように、寺院で相談窓口を開いていたり寺院ではない施設で悩み相談ができたりと、人々の困りごとについて解決法を提示する場所は全国に展開されている。布施が必要となる場合とそうでない場合があるが、大衆の前で行われる法話では必要でない場合が多い。僧侶は時にカウンセラーとしての役割もあり、学校、職場、健康、金銭、人間関係など様々な悩み事を聞いている。ただ、精神科医などの医療専門職とは異なり、医療行為ではないため保険の適用はない。あくまで、出家し仏門に入り修行を積んだ僧として、人助けを行っているのである。故人や今を生きる人、生活に悩みを抱え苦しんでいる人の心に寄り添い、気持ちを和らげることが僧侶たちの仕事である。

## 3. 今後の展望

一年次では、寺社仏閣の現状の調査、課題の項目だしを行った。住職と対談し、寺院の管理・運営、これまでの歴史を学んだ上で法話に焦点を当て分析を進めた。

二年次では、実際に寺院にて法話に関する催しを行う。人々の寺院への関心の程度や法話についての理解度を調査し、分析した上で課題形成をする。僧侶と人との繋がり、コミュニケーションが生まれる機会をつくり、最終的には寺院が自然と人が集まる場所になっていけるように調査を進めていく。

## 引用

1)文化庁、「宗教関連統計に関する資料集」